

## 注目のカウファミリー 第51回

# エバ ジョア VG-87

写真1



フランスのル・マンから40kmほど南に位置するエバ牧場は、ホルスタイン種のほかに鮮やかな褐色毛を持つフランス・リモージュ地方原産の肉用種リムジンを飼養しており、リムジンブリーダーとしても有名です。今回はホルスタイン種に焦点を当て、当牧場の代表カウファミリー「エバ」についてご紹介します。

「エバ」はヤングサイアとして活躍する当団種雄牛「JP3H61325 ビッグボス」【写真4】を輩出したカウファミリーであり、代々エバ牧場で繁栄しています。起源は1980年代後半までさかのぼり、当時のエバ牧場ではフランス北西部を起源とするノルマンディ種を搾乳していましたが、より能力の高い乳牛を求めホルスタイン・フリージアン種へと徐々に移行していきました。何代にもわたる交配を経てホルスタイン種が確立されたとき、経営者であるジーン・ピエール・ブリラン

ド氏は遺伝改良の重要性を再認識し、ブリーディングによる牛群改良を進めることを次なる目標に設定しました。そこで白羽の矢が立ったのが「エバ」ファミリーの始祖となる「ブージー」の導入です。

「ブージー」はアツプルノッチを父に持つ未経産牛であり、1980年代後半にエバ牧場に導入されました。「ブージー」はベレアオス(FRA)、サニーボーイ(NLD)、マスコット(USA)などといった欧州と北米の血液をバランスよく組み合わせた独自の掛け合わせで改良を重ね、現在では牛群の約90%が彼女の子孫となっています。

当ファミリーの体型改良を飛躍させた代表牛「エバ クララ EX-90」【写真5】は体型に優れたトイストーリー娘牛であり、「ハージー EX-90」【写真6】や「リザ VG-88」【写真7】といった多くの好体型娘牛を輩出しています。一方、当ファミリーのインデックス改良をけん引したのが「エバ ハノイ VG-87 MS-89(父:モーグル)」【写真3】の枝葉です。「ハノイ」は未経産当時、欧州第5位のGTPIを持ち、優れた遺伝能力から各国授精所の注目を集めました。彼女の娘牛たちはフランス国内を中心に繁栄を続けていましたが、「ジョア VG-87(父:ハロゲン)」が誕生したことによってファミリーはさらに広く世界へと周知されます。

「ジョア」は未経産当時、世界第1位のGTPI、欧州第1位のGLPIを持つことで注目を集め、まさにゲノミック評価で発掘された牛の一頭です。彼女が持つ乳用性と抜群の乳器は4-08 305日 M12,524kg F4.21% P3.8%の好成績でフランス総合指数(ISU)第3位にランキングしました。

「ジョア」の孫娘にあたる「DGF クロウ ET VG-85」【写真1】は5歳時にVG85点、乳器VG88点の高得点を獲得した機能的体型が特徴の経産牛であり、TPI第1位に長きにわたりランキングしている検定済種雄牛「キヤプテン」を輩出した「チャール」を父に持ちます。ファミリーから受け継いだ乳用性に富んだフレームと「チャール」の高乳成分がマッチしたことから欧州第22位のネットメリット(NMS)と第24位のGTPIを持つエリートカウとして活躍し、複数の息牛を授精所に輩出しました。

日本では「クロウ」の持つチャール×モンタナ×ハロゲン×モーグルという国内では見られない血統構成と乳用性に富んだ機能的体型が決め手となり、ドイツ種雄牛「サノ」を交配した受精卵が当団優良遺伝資源造成事業にて導入され、「エバ」の血液が初めて日本に入りました。当受精卵より北海道稚内市 石黒茂雄牧場にて誕生した「ロックスイール リチャード クロエ ET(父:サノ)」は未経産時にGNTP第58位(2022年6月公表)で初登場し、経産牛としても第58位(2024年8月公表)にランキングされました。全姉弟にあたる当団種雄牛「JP3H61325 ビッグボス」は当ファミリーから国内で初めて供用された種雄牛であり、サノ×チャール×モンタナという希少な血統構成に加えて全国第5位の優れた乳代効果から、2024年2月ヤングサイア全国第8位でデビューしました。「ビッグボス」が持つ中型サイズの機能的体型と好ましい乳頭配置はさまざまな飼養環境で活躍が期待される注目のヤングサイアです。

長命性と高能力を兼ね備えた乳牛が求められる現代酪農に適したフランス生まれの「エバ」ファミリーの活躍に今後も注目です。

